

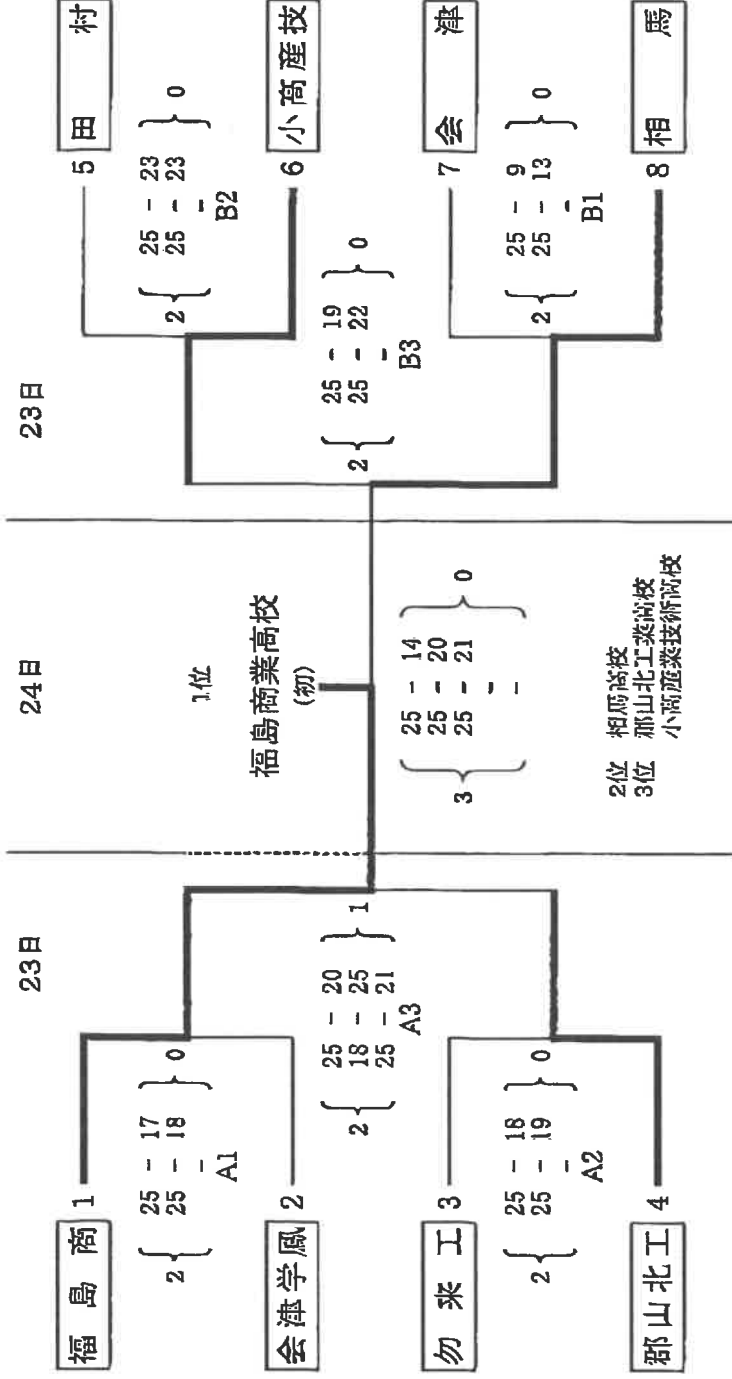


第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会

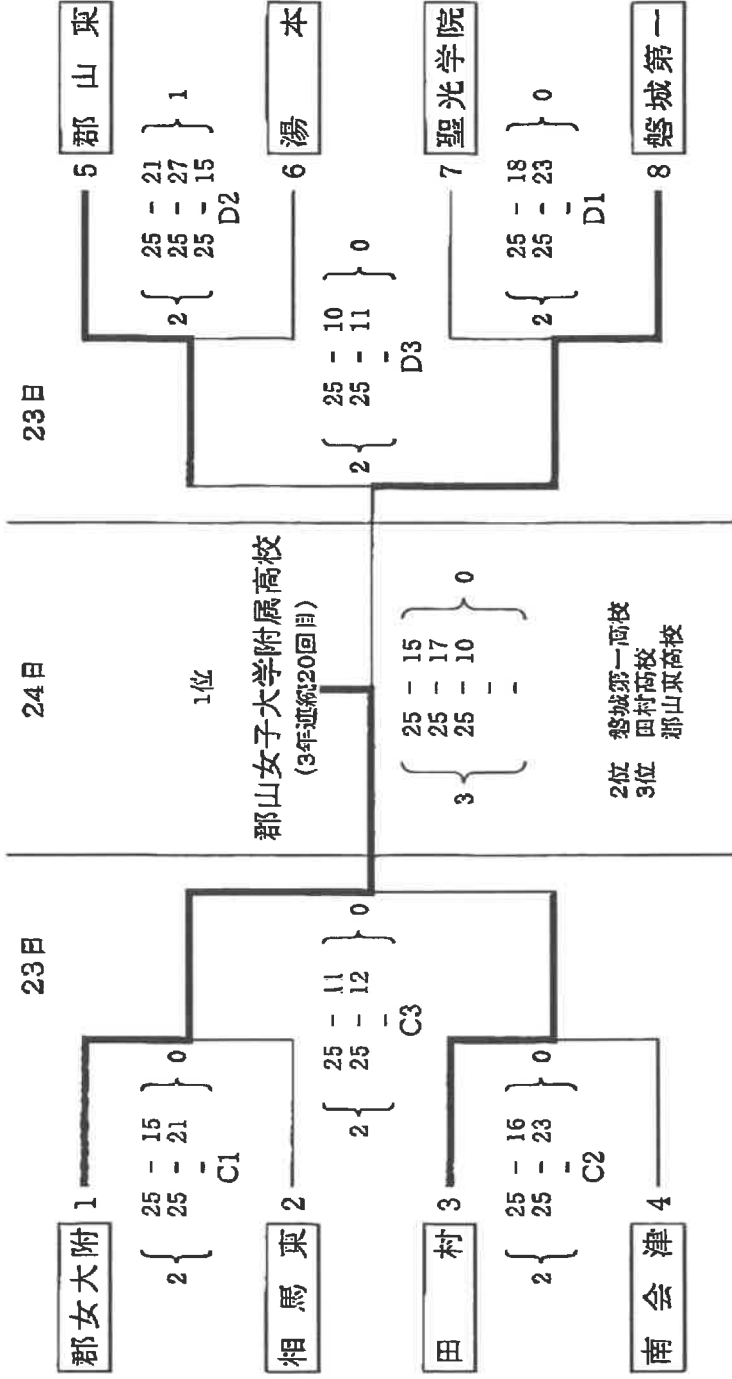
福島県代表決定戦

兼 第46回FTV杯争奪福島県高等学校バレーボール選抜優勝大会

《 男子 結果 》



《 女子 結果 》



戦 評

大会名 : 第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会福島県代表決定戦
兼 第46回FTV杯争奪福島県高等学校バレーボール選抜優勝大会

期日 : 平成30年11月24日(土) 会場 : 国体記念体育館

種目 : 男子 女子 決勝

主審 木村貴士 副審 酒巻祐亮 戦評 樋口博亮

福島商業高等学校 3 [25-14
25-20
25-21
-
-] 0 相馬高等学校

男子決勝戦は、前回大会と同カードで今年度の県高校大会優勝の福島商業高校と本大会の連覇を目指す相馬高校との対戦となった。

第1セットの序盤、福島商業は1番山澤のセンターからの攻撃が決まりリードを奪うが相馬高校は守備からバムもスリ8-8の同点に追いつく。中盤、福島商業は5番吉田のブロックで流水をかむと4番石山奇と6番羽田のバックアタックが連続で決まり点差をひらげる。最後は、5番吉田のスパイクが決まり25-14で福島商業が第1セットを先取した。

第2セットは両チームとも互角のスタートを切る。中盤、相馬高校はミスが続いてしまし連続失点をしまつが2番松本のブロックとサーブから流水をかみ、福島商業との点差を縮めていく。福島商業は1番山澤のブロックから流水をひきもどすと最後も1番山澤のスパイクが決まり、25-20で第2セットも制した。

第3セットは相馬高校が2番松本の攻撃で得点を重ね、この試合初のリードを奪う。対する福島商業はリードは許したものの落着いてプレーをし、6番羽田のスパイクでリードを奪い返す。そのまま中盤まで一進一退の攻防が続くが、福島商業は2番熊谷と4番石崎の攻撃がさええ、点差が7点差までひらがる。相馬高校は、1番金三澤と4番立谷のスパイクとサーブでリズムを取り返し、4連続ポイントも奪うなど粘りを見せる。しかし最後は、終始卵形な攻撃をみせた福島商業が25-21で第3セットも制し、県高校大会に続いて優勝した。

福島県バレーボール協会

戦 評

大会名 : 第71回全日本バレーボール高等学校選手権大会福島県代表決定戦
兼 第46回FTV杯争奪福島県高等学校バレーボール選抜優勝大会

期日 : 平成30年11月24日(土) 会場 : 国体記念体育館

種目 : 男子 (女子) 決勝

主審 志賀 おり江 副審 齋藤 幸子 戦評 景山 健太

郡山女子大付属	3	25	—	15
		25	—	17
		25	—	10
		—	—	—
		—	—	—

磐城第一 0

女子決勝第1セットは3年連続の春高バレー出場を目指し郡山女子大付属(以下郡山大附)とインターハイに続く全国大会出場を目指し磐城第一の屈指の好カードとなった。

第1セット、郡山大附2番朝倉のクースエースからゲームが始まった。序盤は点を取り合う展開となったが、郡山大附が磐城第一のエース3番波邊を徹底2-7。2枚ブロックで攻勢を押し、9連続得点に成功する。このセットは、第1セットは25-15で郡山大附が先取した。

第2セットも序盤は一進一退の攻防が続くが、磐城第一は第1セットと同じローテーションで相手ブロックの2-7に苦しみ、7連続得点を許しこぼす。郡山大附はリバロ井上のレシーブから確実にリズムを作り、25-17で第2セットを取った。第3セットはスタートから郡山大附7番目黒が絶好調。ブロック攻勢とブロック得点を重ねる。磐城第一も2番八代のブロックが光り、良いプレーから流石に乗り切った。郡山大附目黒のブロック攻勢が止まらぬ。終盤、郡山大附11番青島のストレート打ちが決まり出し、2番朝倉の連続ブロックポイントで9連続得点に成功。このまま第3セットを25-10で取り、郡山女子大付属高枚が3年連続で高バレーへの切符を手に入れた。

福島県バレーボール協会